

# 日刊金属

アルミ

## アルミ対日CIFプレミアム第4クオーター積 買い手にやや不利、当初より下げ幅縮める 今週中にも決着の公算、数量は計画範囲内

アルミ新地金の第4クオーター(10~12月)積対日CIFプレミアム交渉が、豪州プロデューサー(売り手)と国内大手商社(買い手)の間で行なわれている交渉は、やや買い手に不利な状況となっており、前回比1~2ドル前後の値下げで早ければ今週中に終わらせたいとの声が買い手側からできている。なお、購入量については、内需は猛暑の影響などで伸びはしているものの、予想を上回るほどではないため、計画通りの数量が購入されることが決まっている。

売り手は前回クオーター比横ばいの120~122ドルにしたいとの意向を示したもの、買い手はそれは高いと前回比で約5ドル低い115ドル近辺を求めていた。

日本側がプレミアムの値下げを求めている背景は、10月以降の内需減速だ。国内のアルミ需要は景気刺激策によって順調に回復している。統計もそれを示しており、今年6月までの圧延出荷量は108万トンを超えており、リーマンショック前(08年1~6月)の約9割まで回復している。ただ、こうした回復には中国への輸出も大きな要因となっている。圧延品そのものの輸出は例年、総出荷量の1割程度しかなく、今年も例外ではない。ただ国内で製造された製品が中国に輸出されるという間接的な形で、圧延品も恩恵を受けていると商社筋は話す。

その中国では経済成長に一服感の兆しを示

発行所 有限会社 メタル情報センター

大阪 大阪市北区天満2-12-3(南束広ビル3階E号)  
〒530-0043 電話(06)6353-7831 代表 FAX(06)6353-7832  
東京 東京都中央区新川1-81-8(ニッカハイム夢場町)  
〒104-0033 電話(03)3523-0442 代表 FAX(03)3523-0443

METAL INFORMATION CENTER 2010

購読料 6ヶ月 36,750円 前金  
3ヶ月 18,900円

す経済指標がでてきている。例えば、中国国家統計局が発表している2010年の実質GDP成長率は1~3月は11.9%、4~6月は10.3%とダウン、7~12月にかけてもスローダウンを政策的に行ない、2011年1~3月をボトムにするといったものがある。しかも国内では、景気刺激策の1つ、自動車のエコポイントは打ち切りが決まっている。

買い手側は、国内需要をけん引していた自動車と中国の輸出、2つに不透明感がでていていることを主な理由に、プレミアムの引き下げとの考えをもっていた。しかし売り手側は欧州をはじめ世界経済は緩やかながらも回復しており、世界的にみてアルミ新地金の供給に余剰感はないとの姿勢から値下げに抵抗。

そして買い手側が掲げている先行きの不透明感も、インパクトという点では弱さがみられる。例えば国内の自動車生産はエコポイント切れ以降は、ポイントのあった月と比べて3割程度の落ち込みがあるとの見方がでていたものの、いまは1~2割の落ち込みという見方に変わっている。

こうした双方の事情に加えて、両者の価格差が5ドルと小さいこともあり、交渉を長期化するメリットはありませんことから、前回比1~2ドル程度の値下げで今週中にも交渉を終わらせたいと買い手は話している。

## 8月のアルミスクラップ月刊レポートおよび9月の見通し 橋本金属×アルミ・橋本健一郎氏

### 10月自動車生産計画20%減

### 7月2次合金生産も頭打ち

概況:前半、米GDPの速報値を好感する形でスタート。さらに欧州の経済指標の好調を受けLMEアルミは2200ドルの大幅上昇のスタートとなつた。しかし米住宅生産指数の悪化、7月の米雇用

統計の予想以上の悪化を受けて下落。後半はユーロ圏鉱工業生産の悪化、米耐久財受注額の悪化、米の新設、中古とも販売件数が大幅下落したことからLMEアルミもさらに下落、8月30日現在2030ドル近辺。

7月の経済指標:日本自動車工業会発表によると自動車生産台数は前月比+0.7%の86万6762

台。8月発表の10月の自動車生産計画は前月比-20.5%の73万8千台。国土交通省発表の新設住宅着工戸数は前月比+0.1%の6万8785戸数であった。(前年同期-3.4%)

**貿易指標:**財務省貿易統計によれば、輸出では、アルミ新地金が前月比+7.6%の226トン、2次合金が同+6%の1194トン、スクラップは同-18.3%の6400トンとなった。輸入では、新地金が前月比-28.4%の13万2410トン、2次合金が同-1.1%の9万7860トン、アルミスクラップは同-47.2%の632トン、2次合金原料としての需要が多い合金スクラップは同-26.4%の5510トンとなった。

**7月の国内指標:**日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前月比+1.4%の18万1270トン(前年同期+4.3%)。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前月比-0.7%の7万875トンであった(前年同期+4.8%)。

**見通し:**7月は国内自動車生産台数が前月比+0.6%と伸び悩み、2次合金生産も前月比-0.7%と7万t台と頭打ち。10月の国内自動車生産計画

は9月までとは一転、20%減となった。圧延・押出品生産数は前月比+1.4%と再び伸び悩み。新設住宅着工数は前月比+0.1%の6万8千戸と伸び悩んでいる。ファンダメンタルズは合金輸入塊は高値水準にあるが円高により手当てがしやすくなったり夏季休業前のリスク売りからメーカー在庫は潤沢と予想される。輸出入は内需の一服を背景に輸入はアルミスクラップが-47%、合金スクラップが-26%と大幅減少、9月うって変わって供給過剰が予測される。LME価格については景気対策息切れによる米景気後退懸念が台頭しているが2週間以内に新たな景気対策を発表するとの報から多少の期待感もあり1900-2100ドル台を予測。価格が需給に左右されるアルミスクラップに関しては10月の自動車生産が前月比で20%減の計画が立てられていることやメーカーの在庫が潤沢にあることから、9月は一転供給過剰になるとの思惑で8月後半価格から-20円程度の下げ予測。

新設住宅着工戸数	自動車生産台数		
	5月	6月	7月
日本新設住宅着工戸数	5万 9911戸	6万 8688戸	6万 8785戸
前月比	-10%	+14.7%	+0.1%
前年同期	-5.1%	+8.7%	-3.4%
輸出	5月	6月	7月
新地金	115 t	210 t	226 t
前月比	-45.4%	+82.6%	+7.6%
二次合金	1310 t	1126 t	1194 t
前月比	+21.2%	-14%	+6%
スクラップ	6838 t	7833 t	6400 t
前月比	-20.1%	+14.6%	-18.3%
計画台数	8月	9月	10月
計画台数	68万 8700台	92万 8400台	73万 8千台
前月比	-17.5%	+34.8%	-20.5%
輸入	5月	6月	7月
新地金	13万 6009 t	18万 5055 t	13万 2410 t
前月比	-12.4%	+36%	-28.4%
二次合金	9万 452 t	9万 8902 t	9万 7860 t
前月比	+18.2%	+9.3%	-1.1%
スクラップ	778 t	1196 t	632 t
前月比	-8.9%	+53.7%	-47.2%
合金スクラップ	7157 t	7491 t	5510 t
前月比	-2.7%	+4.7%	-26.4%

新設住宅着工戸数	5月	6月	7月
日本新設住宅着工戸数	5万 9911戸	6万 8688戸	6万 8785戸
前月比	-10%	+14.7%	+0.1%
前年同期	-5.1%	+8.7%	-3.4%

輸出	5月	6月	7月
新地金	115 t	210 t	226 t
前月比	-45.4%	+82.6%	+7.6%
二次合金	1310 t	1126 t	1194 t
前月比	+21.2%	-14%	+6%
スクラップ	6838 t	7833 t	6400 t
前月比	-20.1%	+14.6%	-18.3%

